と和議を計り秀細返事にてびけり其ゝ後者の面談
ぐうして用心深く修し十郎山形の城に籠りて
依之又尾張守を使者にめし義光より使者を以て明日ハ
我等病気以の外よりあはと十郎殿と対面所間の掟
を頼とし又ハ修理之丞印丸の間家の系図を預け置きたく
の由仕望られ候まゝ所望の事と存じ不日に罷出候
よし返事申し義光ハ十郎と対面為色々の謀を構
へ待受ける十郎之ゝ夢にも知らず既に施行の日意文
友出来ケまゝ家の子花やかに出立て山形へ急きける

而も其命三人の法師ハ近き是迄参上と言ひて
帰り申さず大きに怒りて武法を謀りたるハ是抑物に狂ひ
たる歌の方便と言せられ大死しのめでし漢の高祖楚の
項羽秦の鴻門に会盟せし陸を窺ひ高祖を討ん事も
張良早く察して沛公謀略空しくせしより是氏
家尾地が計策と覚えたり思ひ寄らぬ
只病気のよし以使者延引の旨断あるべしと密に流
流れ中にまぬ十郎殿ハ合点せ甚だ好く山十郎も
為て有りへども一つは我も計に為り日前上の系図家の掟